

	国際教養学系	国際都市学系	経営科学系			理学系
			経営学コース	会計学コース	経済学コース	
学位	学士(国際教養学)	学士(学術)	学士(経営学)	学士(会計学)	学士(経済学)	学士(理学)
卒業論文評価・判定基準	<p>以下の評価項目を総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題が十分に説明されているか。 ・先行研究の検討が十分になされているか。 ・論理的整合性があるか。 ・実証性を備えているか。 ・オリジナリティが認められるか。 	<p>以下の評価項目を総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題の学術的意義や社会的意義が説明されているか。 ・先行研究の検討が十分になされているか。 ・研究課題・方法・結論等に独自性・独創性が認められるか。 ・実証研究の場合、実証性を備えた調査・分析・考察を行えているか。 ・論文の構成・記述に論理的整合性があるか。 ・学術論文としての構成・体裁が整っているか。 	<p>以下の評価項目を総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文としての構成・体裁が整っているか ・的確な研究の焦点 ・先行研究の十分なサーベイ ・論理的整合性 ・適切なデータ、資料の使用 ・より大きな付加価値(net contribution) 	<p>以下の評価項目を総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文としての構成・体裁が整っているか ・研究の焦点が定まっているか。 ・先行研究のレビューを充分に行っているか。 ・論理的整合性があるか。 ・適切なデータ、資料に裏付けられているか。 ・相応の独創性が認められるか。 ・研究の意義・成果の明示がされているか。 ・副査はプレゼンテーションも評価する。 	<p>以下の評価項目を総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・的確な研究の焦点 ・先行研究の十分なサーベイ ・論理的整合性 ・適切なデータ、資料の使用 ・より大きな付加価値(net contribution) 	<p>以下の評価項目を総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文に関する規定や内規に従って記述されているか。 ・研究課題に積極的に取り組み、意義のある成果が得られたか。 ・研究内容の基礎知識が十分であったか。 ・論理的かつ適切な表現で記述されているか。 ・発表会で口頭発表を行い、質疑応答が明解に行われたか。
卒業論文評価体制・手続き	国際教養学系	国際都市学系	経営科学系			理学系
			経営学コース	会計学コース	経済学コース	
<卒論提出資格>	中間発表会で発表を行っていること。	中間発表会で発表を行っていること。	副査に中間報告を行っていること。	副査に中間報告を行っていること。	副査に中間報告を行っていること。	本学学則に定める修業年限を充足(見込みを含む)していること。卒業論文の提出について、指導教員の承諾を得ていること。(物質科学コースのみ)中間発表に合格していること。
<審査体制>	複数教員による審査を行う。	最終発表は、複数教員で審査する。	複数教員による審査を行う。	複数教員による審査を行う。	複数教員による審査を行う。	評価基準を満たしているかをコース全教員で評価する。
<卒論審査(発表会)>	卒論審査(発表会)を開催する。	学生は、最終発表会で口頭発表をすること。	公開の場で卒業論文の発表を行い、副査の審査を受ける。	公開の場で卒業論文の発表を行い、副査の審査を受ける。	公開の場で卒業論文の発表を行い、副査の審査を受ける。	卒論発表会を開催する。
<評価の判定>	成績は、主査・副査が合議の上、学系会議に提案して判定する。	論文内容および最終発表会での発表内容・質疑応答状況を踏まえ、複数教員で合議し、指導教員が学系会議に評価を提案して可否を判定する。	コース会議は副査の報告を受けて論文の可否を決定する。コース会議の決定に従い、主査は副査のコメントなども踏まえて成績を決定する。	原則、主査・副査の各点数の平均点とする	コース会議は副査の報告を受けて論文の可否を決定する。コース会議の決定に従い、主査は副査のコメントなども踏まえて成績を決定する。	コース会議で最終判定を行う。